2020 年度特定共同研究申請書

1.応募領域（丸を付けてください） 古代史料領域 中世史料領域 ☐ 近世史料領域 海外史料領域 複合史料領域
2.申請課題名 史料編纂所所蔵維新関係貴重史料の研究資源化
3 新規・継続の別（丸をつけてください） 新規 ☐ 継続
4.申請者 近世史料部門・准教授・小野将
5.所内共同研究者 前近代日本史情報国際センター・教授・保谷徹 近世史料部門・教授・杉本史子 同・准教授・箱石大 同・助教・水上たかね 同・助教・立石了
6.希望する研究期間 2020 年度～ 2021 年度 （2年間）
7.課題の概要(400 字程度)（この項は広報等に利用・掲載することがあります） 本所が所蔵する維新関係貴重史料群は、質量ともに国内有数のコレクションでありながら、一部を除き史料学的調査・研究は着手されたばかりである（デジタルアーカイブ化も未形成）。本研究では対象史料群のうち、維新史料引継本（約 2 万冊、戦前期の維新史料編纂会が収集した史料群）・外務省引継書類（約 3000 冊、政府外務省から移管された江戸幕府の外国方関係史料）・史談会本（約 2000 冊、旧華族諸家が複製収集した幕末維新史料群）、また、国宝島津家文書や島津家本の中でも、幕末維新関係史料を対象とし、当該の時期でそれぞれの地域を専門とする共同研究者を募集して厳密な史料学的検討を加え、史料群の記述内容を確認して解説目録の作成に着手する。明治維新への社会的関心をも見据えて、本研究の成果を公開し、来たるべきデジタルアーカイブ化に向けての基礎的作業を実施する。
8.研究の目的(400 字程度) 幕末維新期の本格的な史料論の構築をめざし、調査研究をすすめる。本課題では 2018 年度より、戦前以来長期にわたって本所に蓄積された特殊蒐書史料群について、本格的な史料学的調査・分析に着手した。維新史料編纂会・史談会といった、幕末維新时期史料についての編纂事業、江戸幕府外国方の書類を引き継ぎ外務省内でも編纂されてきた外交史料編纂や、島津家のごとく大名家・諸藩に残されてきた一次史料の伝存状況等にはとくに留意して、引きつづき共同研究としての検討を進めてゆく。大規模蒐書であるそれぞれの史料群については、従来その性格や内容がこれまで十分に分析されてきたとはいいがたかった。2019 年度の時点ではなおボーリング的な調査の域を脱していないが、今後本所データベース上にも反映できるような目録記載情報をさらに豊富化し、史料情報の公開をいっそう促進させるとともに、将来的な幕末維新时期史料論の構築に向け、その基礎となる成果の共有を主たる目的とする。

9. 共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400字程度)

現段階でなお研究の進展していない、本所所蔵の大規模史料群について、研究資源化という面での着実な成果を期待することができる。

目録情報・データベース記述の面での豊富化をも進めることによって、研究上中核的・基本的と評価できる史料群についての理解をいっそう深め、本所所蔵史料の有する豊富な研究情報について、所外への公開が一段と進められることが期待できる。

また、幕末維新时期を専門とする研究者の協力を得て本計画を実行することにより、基礎的な史料論のさらなる高度化のみならず、全国的政治史研究の方面での成果をも展望でき、いっそうの相乗効果が得られることも期待される。

10. 研究の実実施計画

・ 本所所蔵史料の再検討・補充調査

本所所蔵の、維新时期関連特殊蒐書は上述のごとく大規模なコレクションであり、網羅的に検証することにはなお困難がある。本共同研究の目的に沿って、いっそうの目録情報の充実をめざし、検証作業をすすめてゆく。過去の蒐書整理のプロセスにも留意したうえで、現状では未だ書誌情報に乏しい史料群につき、目録記述の追補を着実にすすめることをめざす。具体的には、目録上でタイトル・点数程度の記載に留まっている書目が大多数である現状に鑑み、作成主体やその帰属（地域や組織）、作成の年代や所載内容の細目にまで互るデータの増補を推進し、本所データベース上に反映なさせることを想定している。

本課題は 2018 年度に開始され、参加共同研究員の本所所蔵史料に対するそれぞれの問題関心（幕末維新时期政治史を中心としつつ、多様にわたるもの）に対応しながら、これら膨大な史料群につき、ボーリング・試掘的な調査から着手していった。2019 年度の計画に沿って中間的なまとめをおこなった上で、さらにデータ処理の進展や、全体としての進捗状況を勘案しながら、最終的なまとめ方を検討してゆくことにしたい。

・ 研究会の開催

研究の到達段階にしたがって、適当な時期に成果の確認と情報共有とをめざして、共同研究者の参加を得て研究会を開催する（内容・時期等については、なお進捗状況により判断することとしたい）。

11. 研究成果の公開計画

・ 目録情報の豊富化については、引きつづき所蔵史料目録データベース等の内容記述の増補をめざす。

・ 共同研究の成果にもとづき、本所の紀要や画像史料解析センター通信等の媒体上で、論考の発表を計画する。

・ 最終年度（2021 年度末）において、総括的な公開研究会を開催する。

12. 共同研究員にもとめる役割

・ 維新史料引継本・史談会本・外務省引継書類・島津家史料や島津家本など、中核となる史料の現物に即した調査検討、目録データの補充への参加等にもとづく、幕末維新时期の研究推進

・ 研究会への参加、上記の研究成果公開への協力（成果報告の執筆などふくむ）